

平成26年度学長裁量経費研究推進支援プロジェクト研究成果報告書

1. 研究の概要

プロジェクト名	地域文化財のデジタル化に関する基礎的研究		
プロジェクト期間	平成26年度		
申請代表者 (所属講座等)	松久公嗣 (美術教育講座)	共同研究者 (所属講座等)	
取組方法・取組実績の概要	<p>科研費基盤研究 (C)「福永晴帆研究－客観的評価の確立と教育学研究への展開－」では、宗像市教育委員会大社に現存する襖絵に関して、地域の有する文化財の保存修復に向けた基礎的研究を進め、芸術学ならびに教科教育学 (美術・図画工作) の複合的視座から客観的な評価を確立した。そこで、新たな科研費研究課題として研究対象文化財の高度なデータ化とタブレット型デジタル端末を想定した教育的活用法の確立、芸術学ならびに文化財科学の研究成果を教科教育学の実践ならびに教育現場に還元・波及させるための具体的方策の構築を構想した。</p> <p>6月に海の道むなかた館で開催した「福永晴帆日本画展－宗像大社の文化財保存修復にむけて－」においては、地域の一般社会人と教育関係者を想定した内容でパネル展示計画を練ったが、すでにスキャニング工程を終了している文化財のデータ処理を8月に完了して、これらの画像データを融合した小中学校を想定したパネル展示計画を進めた。9月から近隣の小学校を想定したパネル展示計画を進め、各小学校に配備されているデジタルテレビを中心に、iPadと連動させた鑑賞授業案を作成した。次に教育的活用法との整合性を検討し、具体的な内容や予算をまとめて次期科研費研究の申請内容を10月にまとめ、基盤研究 (B) へ申請した。</p>		
研究成果の概要	<p>データを教育的に活用するための処理について専門業者と検討を重ね、まずは高精細画像処理によって再現文化財の作成を試みた。6月の展覧会においても、再現文化財を展示することで、普段は鑑賞が制限されている文化財の細かな部分まで擬似的に鑑賞することが可能となり、地域文化財の保存の必要性を訴えた。来館者数は9,173名で、展覧会に対する地域住民や教育関係者の興味が高いことが確認できた。</p> <p>さらに、高精細の出力データを基に、大学における模写研究の高度化を図った。これまでは幾度となく現地に足を運んで模写と文化財を比較検討してきたが、天候による照度変化や他の物理的障害に左右されることなく、より詳細な部分比較が可能となった。</p> <p>パネル展示計画においては高精細デジタル画像の一部を拡大して掲載するなど、通常の作品鑑賞では不可能な視点や精度での解説が可能となり、デジタル教材を活用する教育的価値について、本物を鑑賞する必要性とデジタル教材を組み合わせる割合などについて、科研費研究を中心とした本格的な研究に向けた仮定と具体的な計画案の立案が可能となった。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 展覧会、「福永晴帆日本画展－宗像大社の文化財保存修復にむけて－」、福岡教育大学日本画研究室・海の道むなかた館 (共催)、2014.6.3-6.29 2) 学会発表「福永晴帆研究－研究成果を鑑賞教育へ展開する方策について－」、松久公嗣、第53回大学美術教育学会福井大会、福井大学、2014.10 3) 論文「福永晴帆研究－研究成果を鑑賞教育へ展開する方策について－」、松久公嗣、福岡教育大学紀要、第64号、査読無、第5分冊、2015.3. 4) 論文「福永晴帆研究」、松久公嗣、美術教育学研究、47号、査読有、351-358頁、2015.3.31 		
外部資金獲得申請及び研究成果の公表方法等について [<input type="checkbox"/> (該当事項) にチェック方願います。]			
外部資金獲得申請	<input checked="" type="checkbox"/> 科学研究費補助金 <input type="checkbox"/> 受託研究費 <input type="checkbox"/> その他 ()	研究成果の公表方法	<input checked="" type="checkbox"/> 学会 (<input checked="" type="checkbox"/> 国内・国外) : 大学美術教育学会 <input checked="" type="checkbox"/> 新聞・図書・雑誌論文等 : 美術教育学研究 <input type="checkbox"/> その他 :